

Hirata

The Global Production Engineering Company

2017年3月期 第3四半期 決算説明資料

2017.2.10

平田機工株式会社



I. 決算状況

2017年3月期 第3四半期 (2017年2月10日)

Hirata

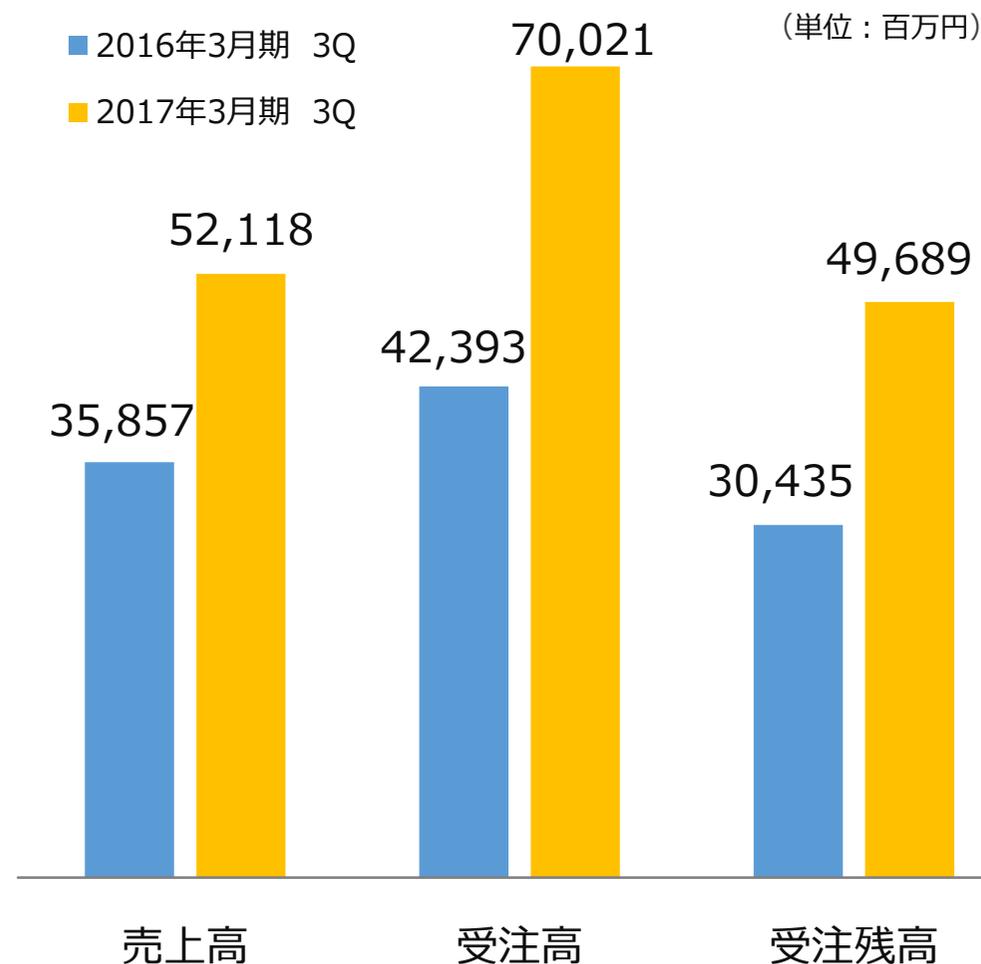


決算概要

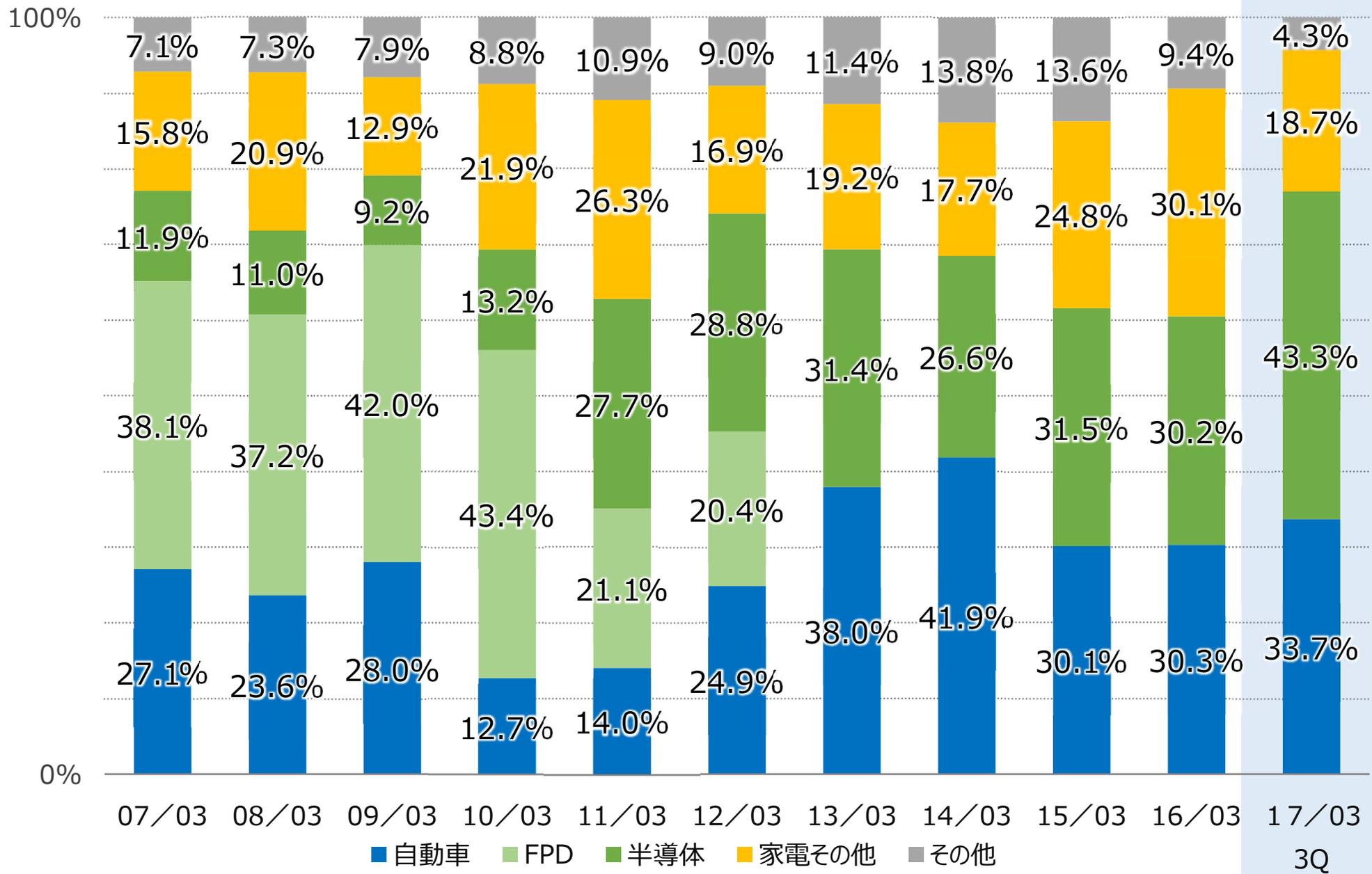
有機EL蒸着装置を中心に半導体関連生産設備事業が大幅増収となり、自動車関連生産設備事業においても、北米メーカー向けのパワートレイン関連設備に加え、電気自動車（EV）メーカーからの継続受注獲得などにより堅調に推移。全体では第3四半期の売上高としては過去最高額を計上。各利益とも同様に過去最高額を計上した。

(単位：百万円)

	2016年3月期 第3四半期 実績	2017年3月期 第3四半期 実績	増減率
売上高	35,857	52,118	+45.3%
営業利益	2,282	5,309	+132.6%
経常利益	2,240	5,049	+125.4%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,380	3,665	+165.5%



I 決算状況 事業部門別売上高構成比推移

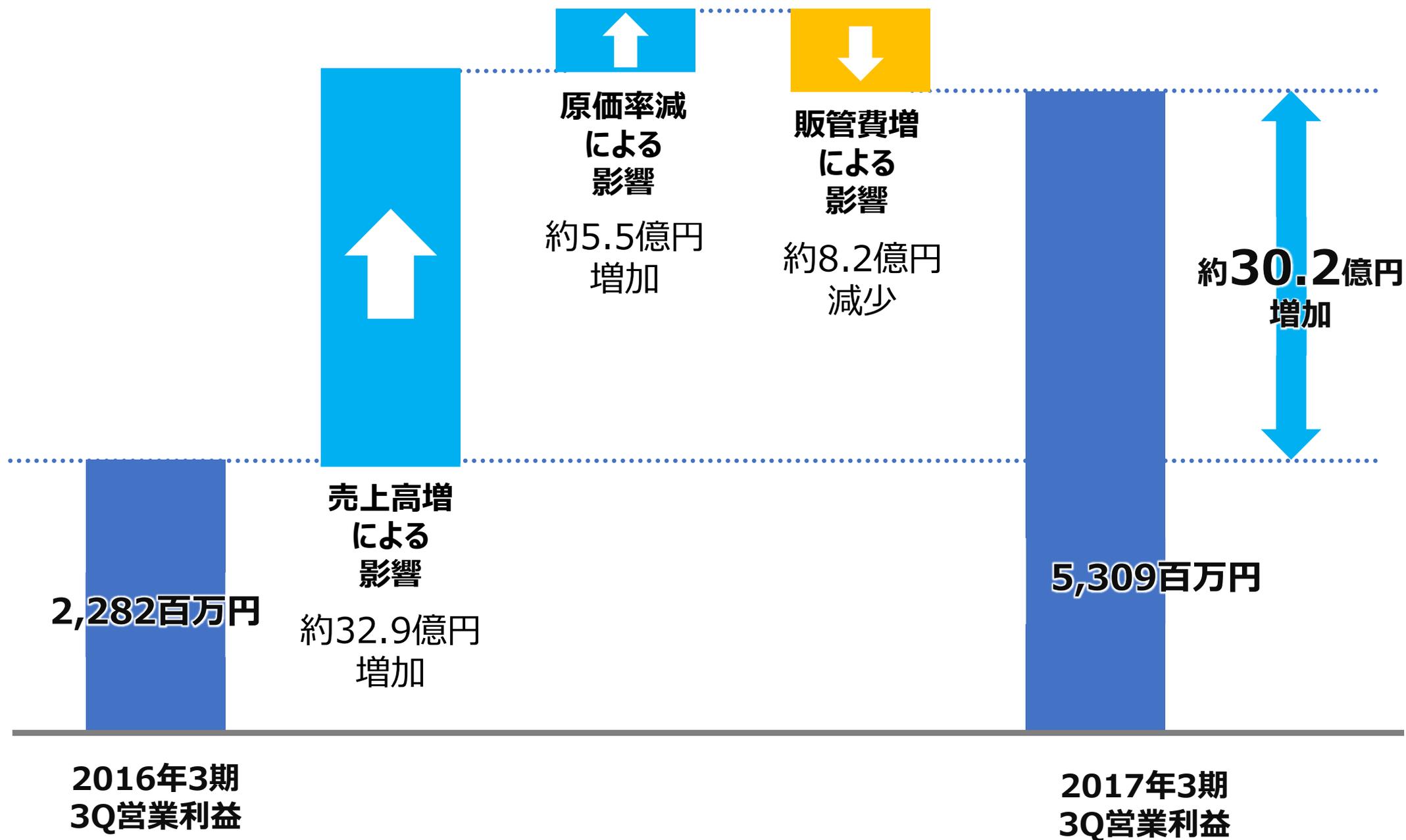


※2013年3月期より、FPD関連事業は半導体関連事業に統合

I 決算状況 事業部門別売上高・受注高・受注残高

(単位：百万円)

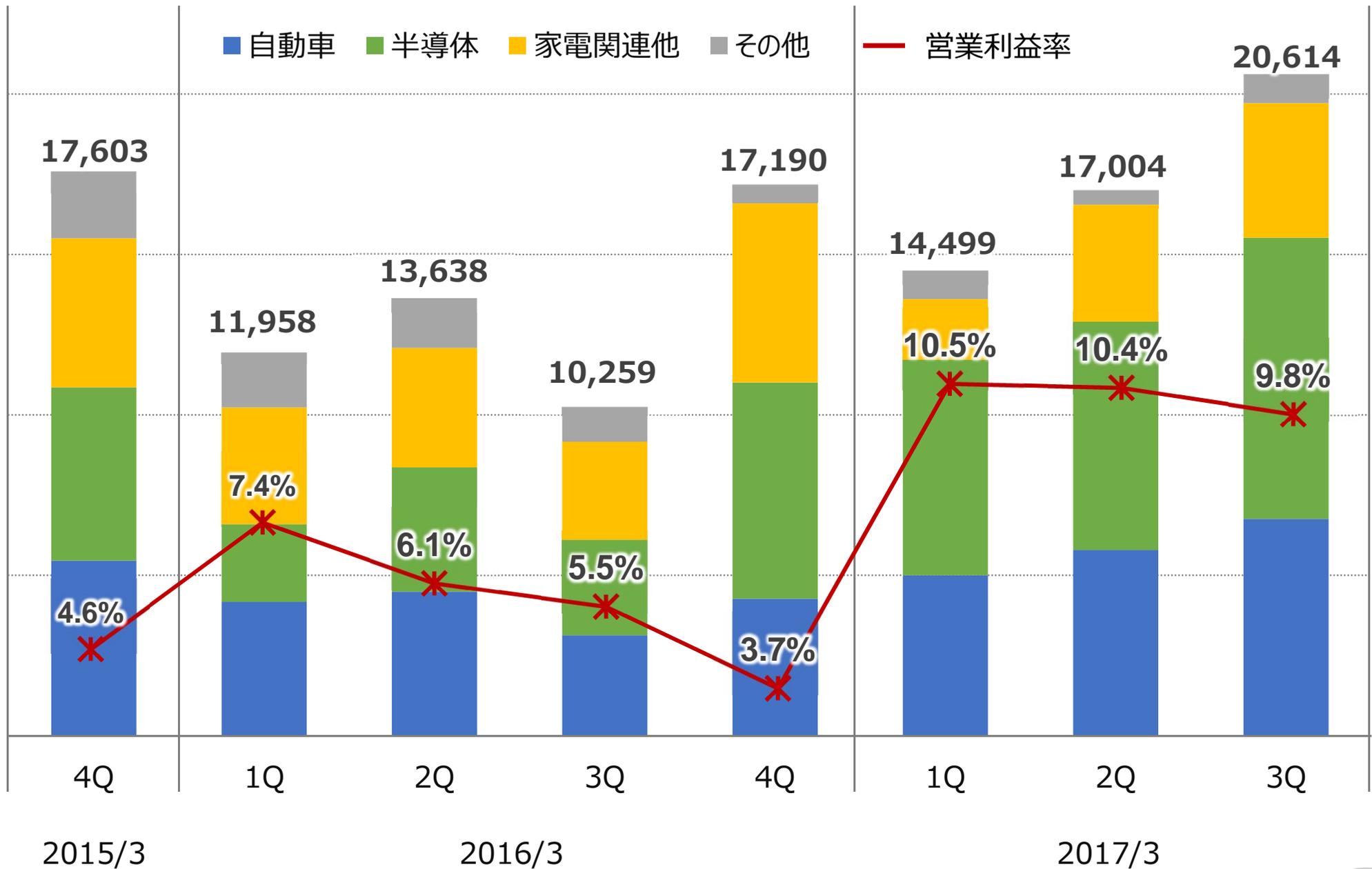
	事業部門	2016/3 3Q	2017/3 3Q	対前年同期比 増減率
売上高	自動車	11,792	17,550	+48.8%
	半導体	9,277	22,589	+143.5%
	家電関連およびその他	10,413	9,745	△6.4%
	その他	4,374	2,232	△49.0%
	合計	35,857	52,118	+45.3%
受注高	自動車	16,650	30,465	+83.0%
	半導体	12,659	27,272	+115.4%
	家電関連およびその他	8,893	8,608	△3.2%
	その他	4,188	3,675	△12.3%
	合計	42,393	70,021	+65.2%
受注残高	自動車	14,661	28,081	+91.5%
	半導体	7,056	13,496	+91.3%
	家電関連およびその他	7,651	5,751	△24.8%
	その他	1,065	2,359	+121.5%
	合計	30,435	49,689	+63.3%



I 決算状況 営業利益率の推移

営業利益率及び事業部門別四半期売上高の推移

(単位：百万円)



自動車関連事業

温室効果ガス削減に向けた技術革新、設備投資はさらに強力に推進される見込み。ハイブリッドエンジンなどの低燃費エンジン関連設備と、電気自動車（EV）関連設備の継続受注を見込む。

半導体関連事業

有機ELパネル蒸着装置関連は、スマートフォン向け需要が本格化し、高い受注水準で継続する見込み。半導体市場関連は、新興国における高機能スマートフォンの普及、自動車向け電子機器を含むIoT関連の市場拡大により、半導体装置メーカーの設備投資の増加が予想され、当社受注も堅調の見込み。

家電関連およびその他

新興国の生活水準向上に伴い、世界の家電需要は緩やかに拡大する見込みであり、特に掃除機関連設備を中心とした受注が期待できる。

※2017年2月10日に通期業績予想を修正いたしました。

(単位：百万円)

	2016年3月期 実績	2017年3月期前回予想 (2016年11月11日発表)	2017年3月期 修正予想
売上高	53,048	70,000	78,000
自動車関連	16,065	26,000	29,000
半導体関連	16,014	26,000	31,000
家電関連およびその他	16,000	15,000	15,000
その他	4,968	3,000	3,000
営業利益 (率)	2,924 (5.5%)	5,000 (7.1%)	7,000 (9.0%)
経常利益 (率)	2,825 (5.3%)	4,500 (6.4%)	6,500 (8.3%)
親会社株主に帰属する 当期純利益 (率)	1,713 (3.2%)	3,300 (4.7%)	4,500 (5.8%)

通期業績予想修正の理由および事業計画達成のための施策

有機EL関連を中心に半導体関連生産設備事業は非常に高い水準で受注が続いており、自動車関連事業も引き続き堅調。加えてアジア地区の子会社の業績が回復基調にあることから、通期の売上高および各利益は前回発表予想を上回る見込みとなり予想を修正。リソースの活用により負荷を平準化し、着実に予定案件を売上げ、目標を達成する。

1株あたり配当金・配当性向 推移

※2017年2月10日に配当修正いたしました。

(単位：円)

	2013年 3月期	2014年 3月期	2015年 3月期	2016年 3月期	2017年 3月期予想
1株あたり配当金	12.50	12.50	15.00	30.00	85.00
配当性向 (%)	46.1	15.5	16.4	17.5	17.8

※配当性向は連結ベース

配当予想修正の理由

当社は、将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しながら安定した配当を継続していくことを基本としつつ、一方で経營業績に応じた弾力的な配当を実施することも肝要であると考えており、業績、経営環境および財務状況等を総合的に勘案した上で決定しております。

上記の方針のもと、通期業績予想を踏まえ、2017年3月期の1株当たりの期末配当金は、前回発表予想の60.00円から25.0円増となる85.00円に修正いたします。

なお、本件につきましては、2017年6月下旬に開催予定の定時株主総会において付議する予定であります。

有機EL関連・電気自動車関連状況

● 有機EL関連生産設備、電気自動車関連生産設備ともに高い水準の受注を維持

(単位：百万円)

	受注高	売上高
有機EL関連	16,575	12,992
電気自動車（EV）関連	9,564	1,066

有機EL関連では、第3四半期までに約130億円の売上高を計上しております。当社の有機EL事業は、キャントツキ社と協同で蒸着装置を製造しており、この実績は高く評価され、今後も継続受注が見込まれます。

また、自動車関連におきましては、2000年頃より、北米自動車メーカーを中心に、エンジン・トランスミッションなど、パワートレインの組立設備を毎年多数受注しており、北米市場におけるパワートレイン生産設備メーカーとして高い評価を得ています。今期は、新たに電気自動車関連の生産設備の受注に成功し、約10億円の売上高を計上しております。

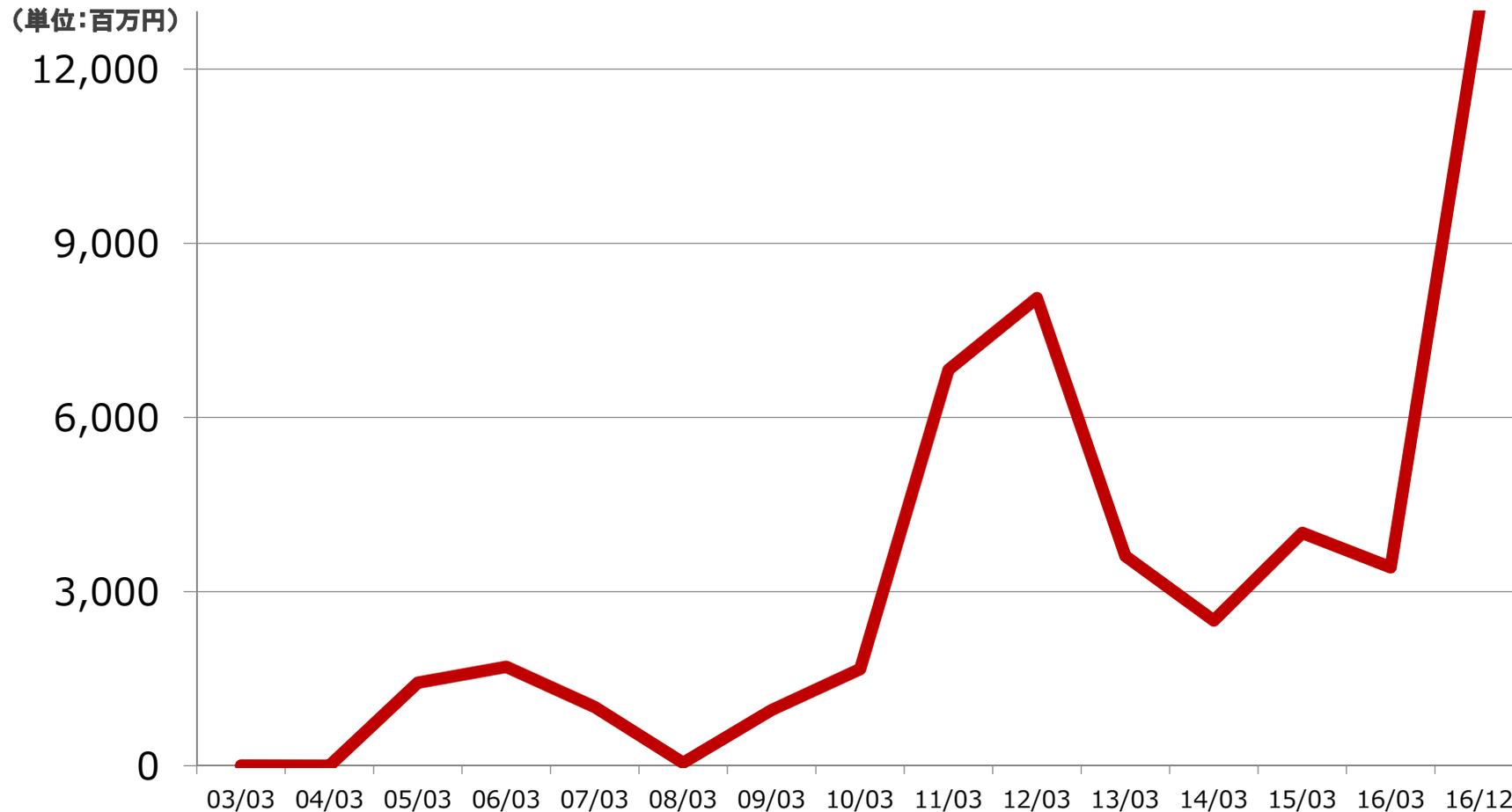
なお、有機EL関連生産設備については、半導体関連生産設備事業に算入、電気自動車関連生産設備事業については、自動車関連生産設備事業に算入しております。

I 決算状況 トピックス

有機EL関連生産設備の売上高推移

● 有機EL関連生産設備 13年間の売上実績（研究開発期間含まず）

売上高 12,992
受注高 16,575



当社、有機EL関連生産設備の初売上は2003年。その後、当社の技術、品質、納期対応力などが顧客に認められ、実績を積み上げ、徐々に売上を伸ばし、スマートフォンの有機ELパネル採用による設備投資が本格化した今期は飛躍的な売上増を記録。今後も有機EL生産設備の心臓部である薄膜蒸着装置の売上が高水準で継続する見込み。

生産エリア拡大、営業所の移転など

● 2016年10月、有機EL関連の熊本工場生産エリア拡大

高い水準で受注が継続している有機EL関連の生産スペース確保を目的とし、熊本東工場（熊本市北区植木町）にクリーンルームなど約2,570㎡の増築を2016年5月に着工し、2016年10月に完成、稼働を開始しました（2016年3月開示済み、費用は約7億円）。これにより、生産スペースが約4,400㎡に拡大し、生産の増加に対応することができます。

当社は、有機EL生産設備の基板洗浄からウェットエッチング、塗布、真空薄膜プロセス、蒸着装置などの各工程を構成するさまざまな装置を生産する技術力を保有してします。今回の生産環境の増強により、来期さらに旺盛となる受注・生産に対応しております。



増築前



増築後：赤枠が増築部分

Ⅱ. 参考資料

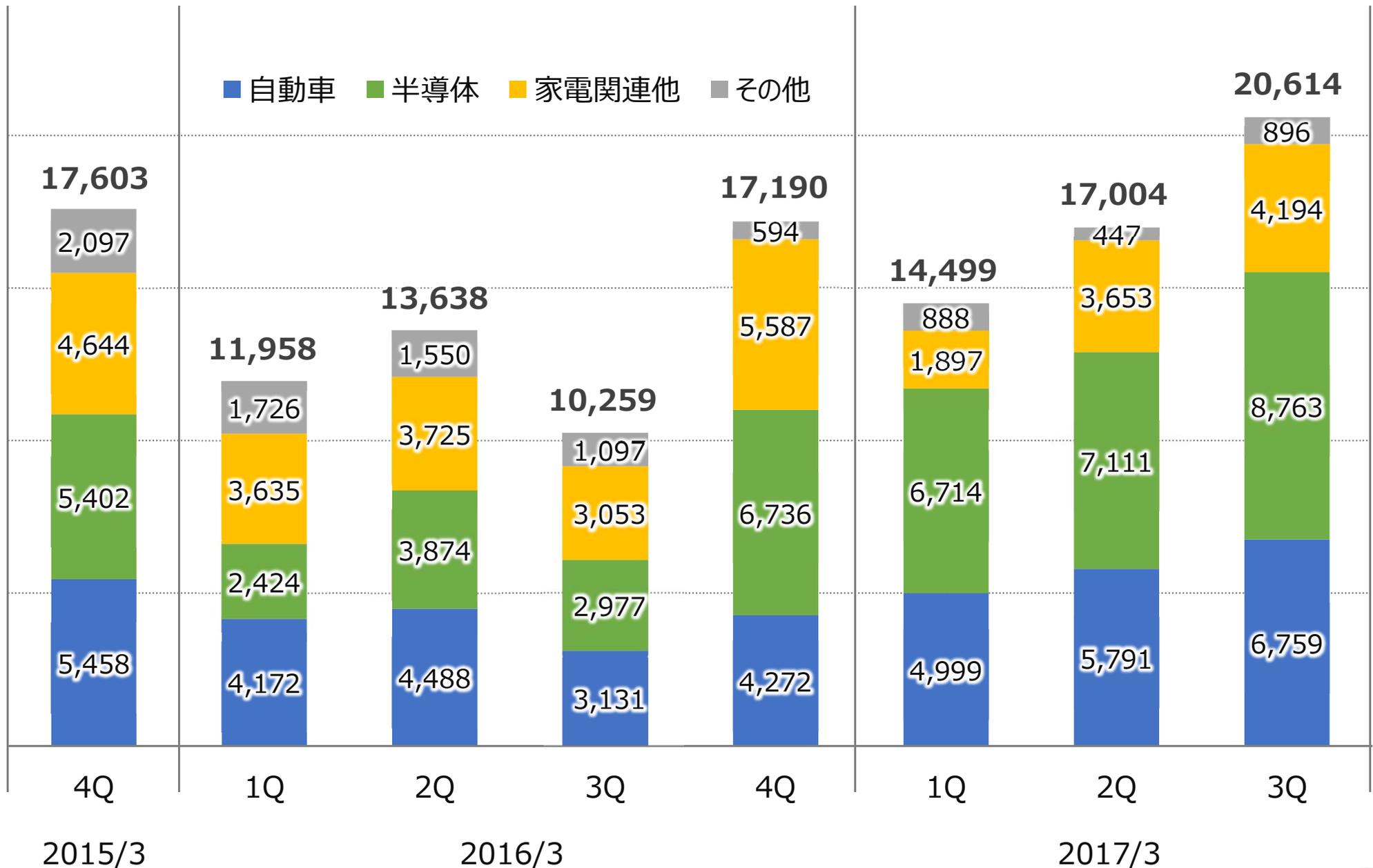
2017年3月期 第3四半期 (2017年2月10日)

Hirata



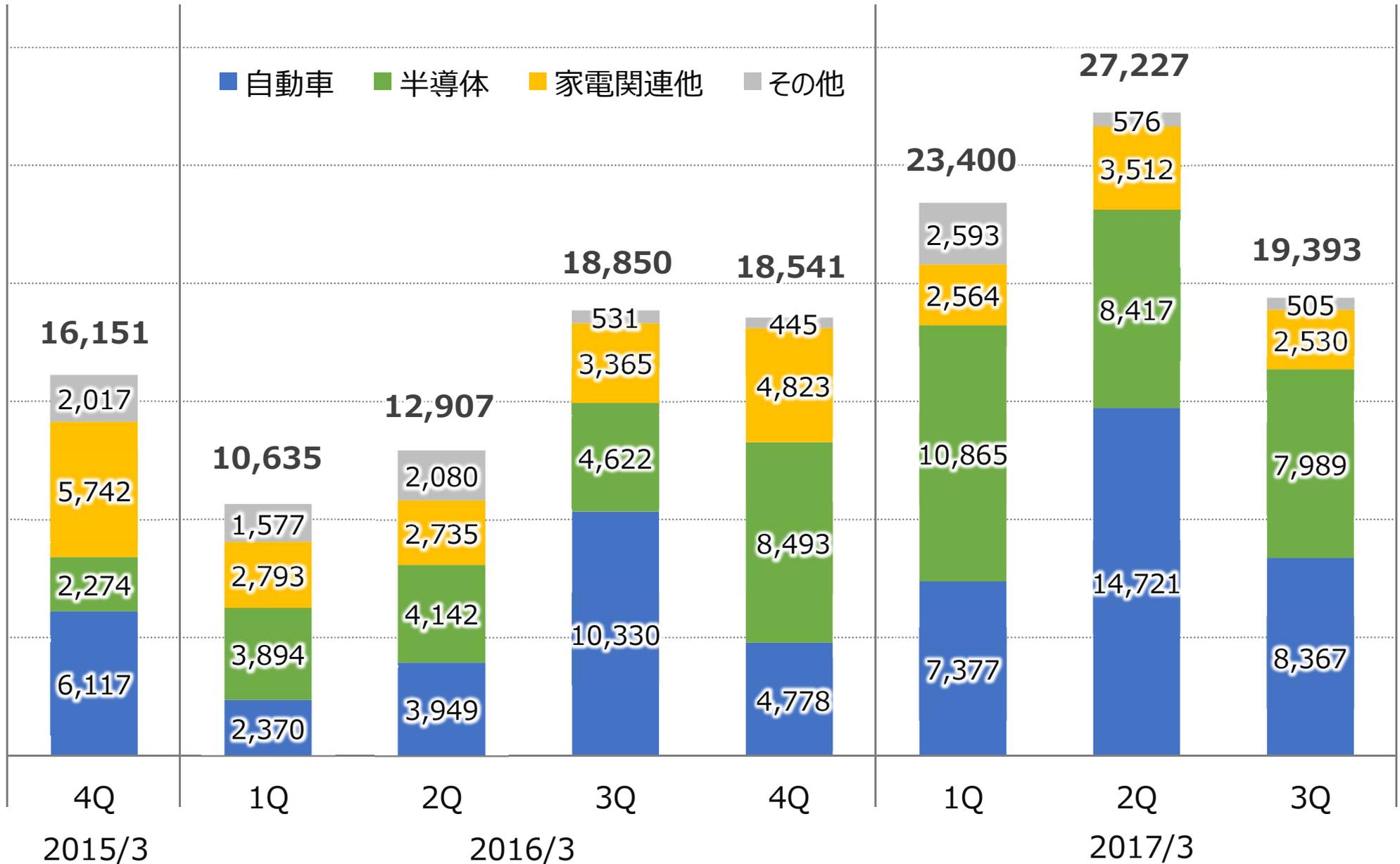
事業部門別四半期売上高の推移

(単位：百万円)



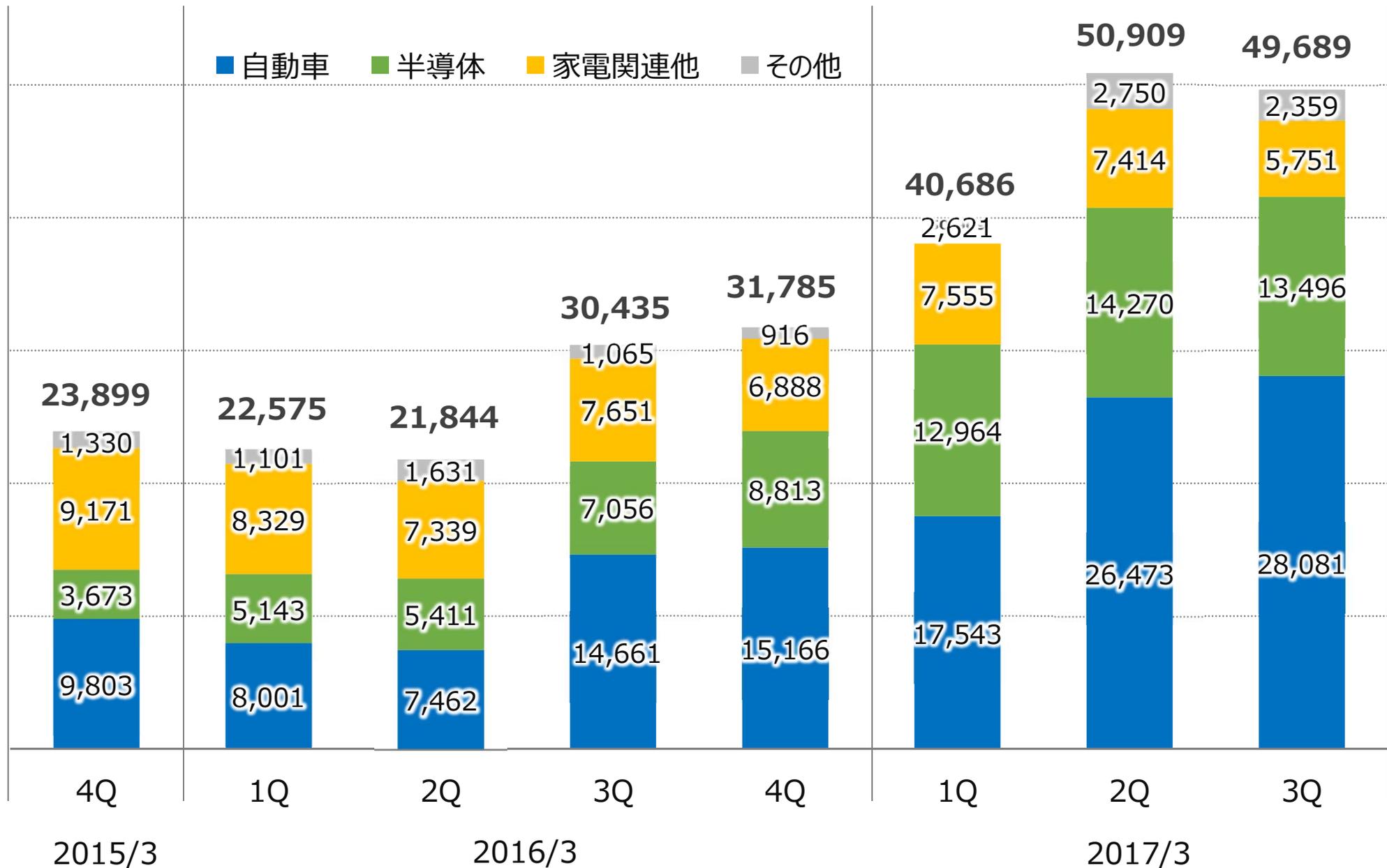
事業部門別四半期受注高の推移

(単位：百万円)



事業部門別四半期受注残高の推移

(単位：百万円)



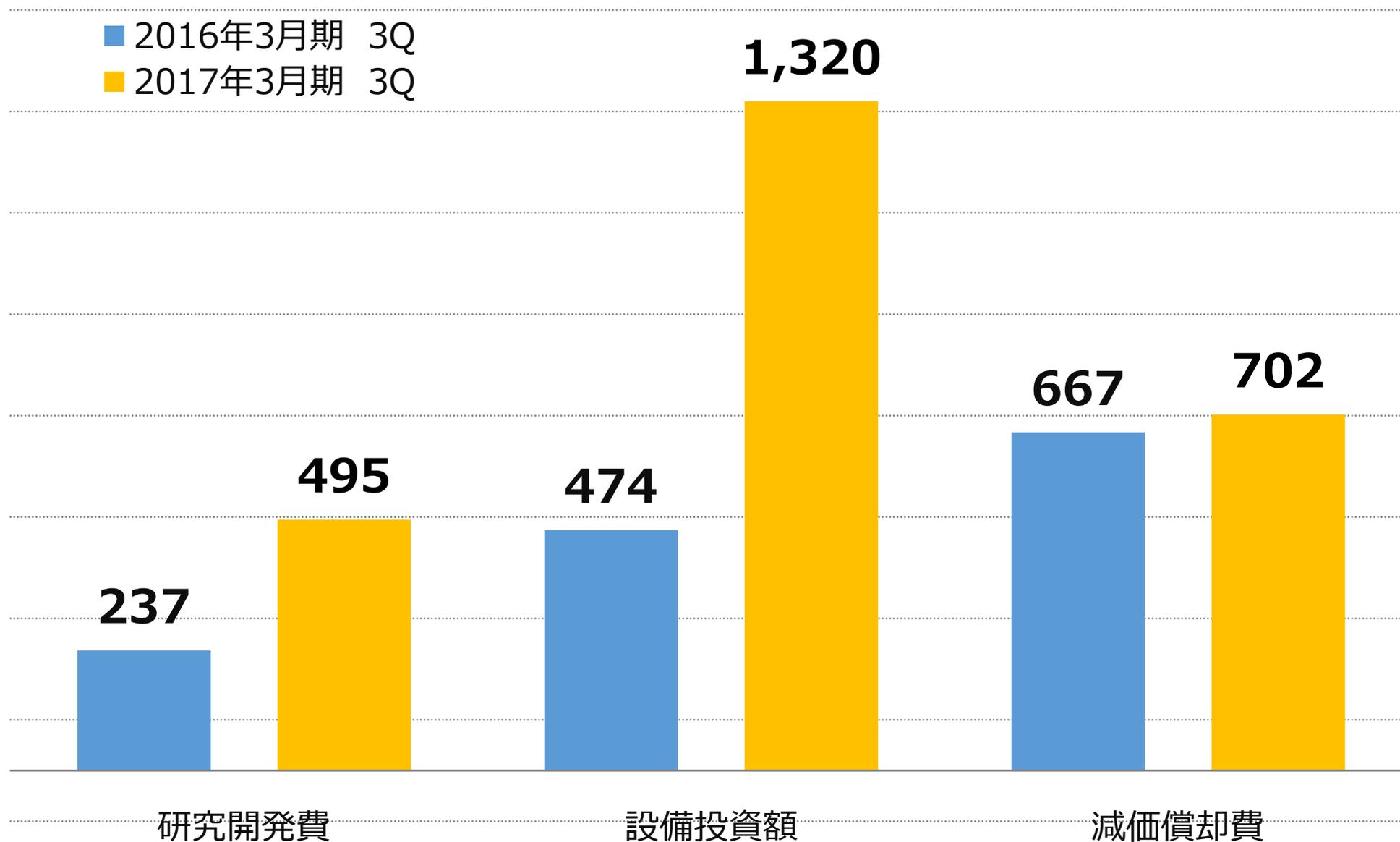
所在地別売上高



	日本		アジア		北米		欧州		合計	
	16/3 3Q	17/3 3Q	16/3 3Q	17/3 3Q	16/3 3Q	17/3 3Q	16/3 3Q	17/3 3Q	16/3 3Q	17/3 3Q
売上高	28,888	45,208	4,417	3,502	2,105	3,098	445	307	35,857	52,118
営業利益	2,491	5,257	△127	△36	△53	144	22	13	2,333	5,379

※営業利益の合計はセグメント間の消去を行う前の金額を表示しています。

(単位：百万円)



貸借対照表

(単位：百万円)

資産	2016年 3月期	2017年 3月期3Q	増減
流動資産	40,758	61,081	+20,323
固定資産	18,923	19,955	+1,031
有形固定資産	15,653	15,791	+138
無形固定資産	398	505	+107
投資その他資産	2,872	3,657	+785
資産合計	59,681	81,036	+21,355

負債	2016年 3月期	2017年 3月期3Q	増減
流動負債	30,592	44,154	+13,561
固定負債	7,504	12,393	+4,888
負債合計	38,097	56,547	+18,450
純資産			
純資産合計	21,584	24,489	+2,904
自己資本比率	35.6%	29.9%	△5.7Point

主な増減項目

資産

受取手形及び売掛金	+15,611
仕掛品	+3,272
現金及び預金	+766

負債・純資産

有利子負債	+9,611
支払手形及び買掛金	+6,049
前受金	+2,325

想定為替レート

(単位：円)

想定為替レート	2016年4月1日～12月31日 実績レート	2017年1月1日～ 想定レート
為替レート (対US \$)	109.06円	100.00円

株価推移

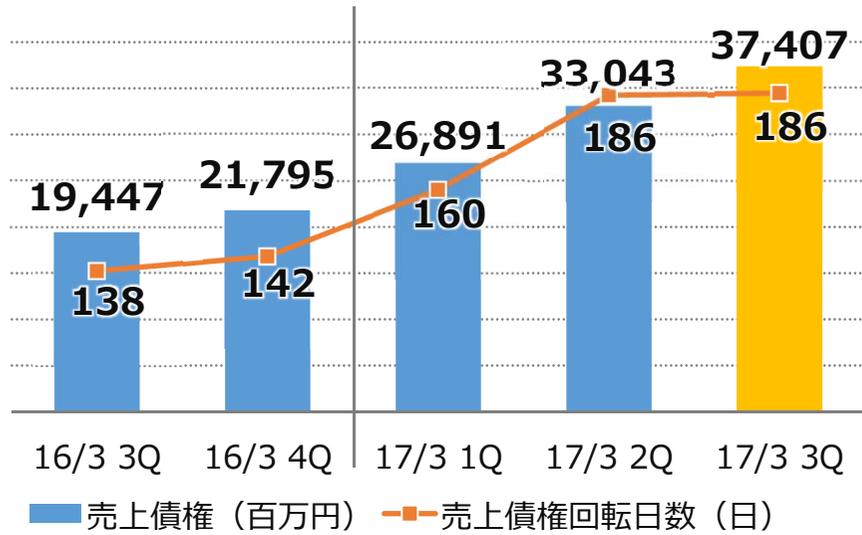
(単位：円)

株価推移	2015年 3月期	2016年 3月期	2017年3月期		
			10月	11月	12月
最高	917	3,100	8,630	7,910	7,560
最低	560	782	6,770	6,310	5,520
末日	799	2,752	7,970	7,510	6,640

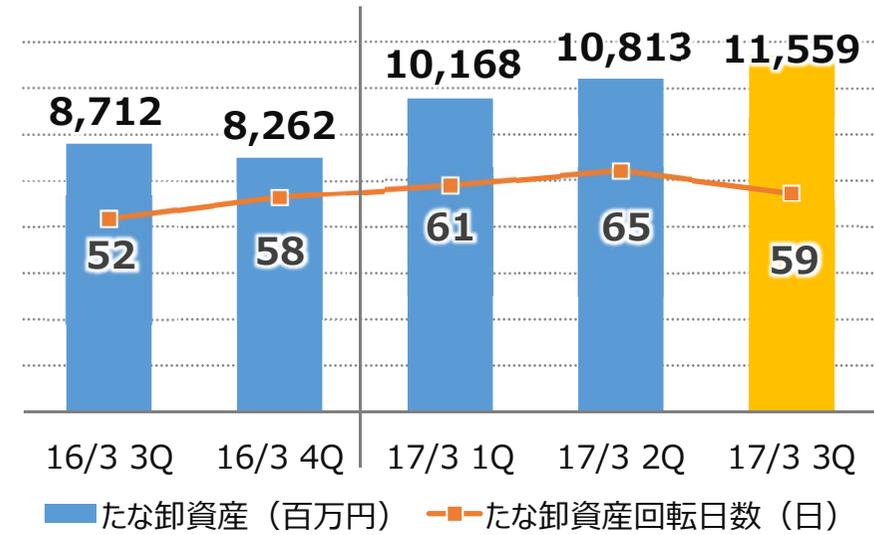
PER/PBR/ROE

PER/PBR/ROE	2015年 3月期	2016年 3月期	2017年 3月期3Q
PER (倍)	8.76	16.08	—
PBR (倍)	0.39	1.22	2.59
ROE (%)	4.70	8.00	—

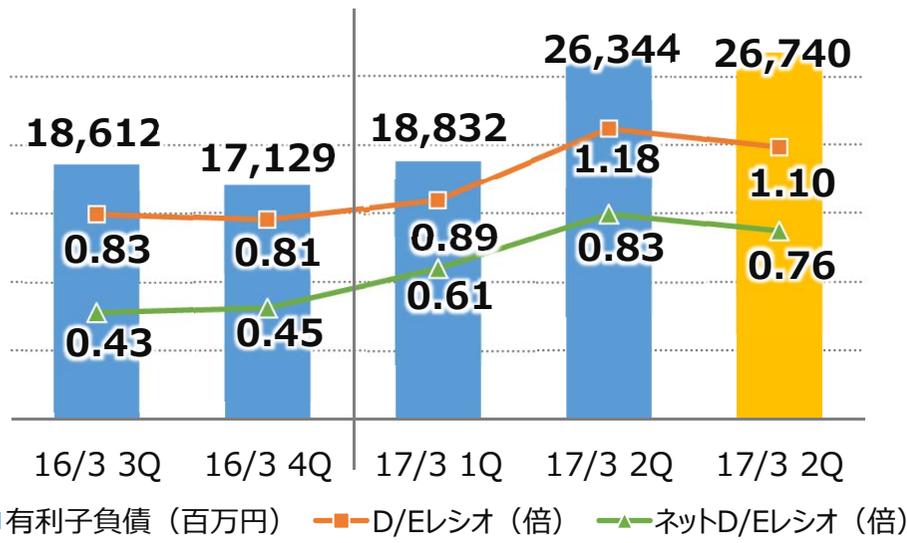
売上債権・売上債権回転日数



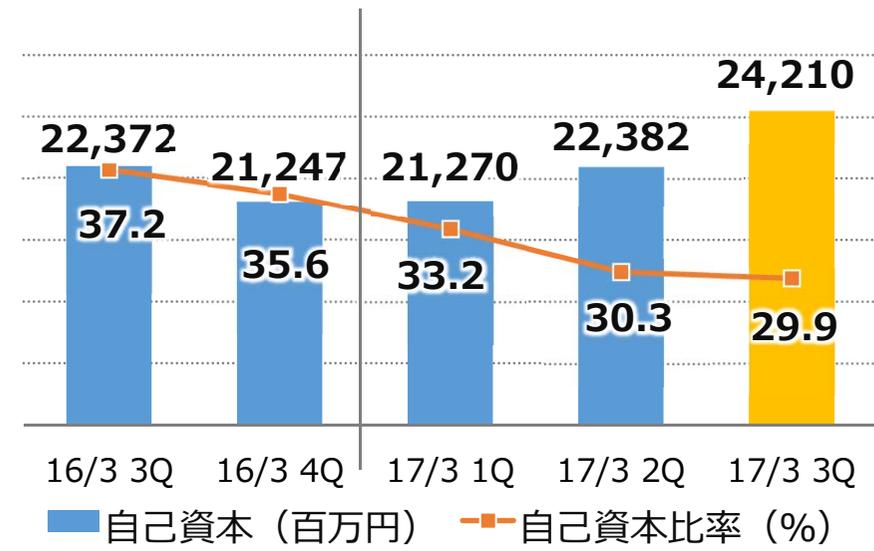
たな卸資産・たな卸資産回転日数



有利子負債残高・D/Eレシオ・Net D/Eレシオ



自己資本・自己資本比率



【注】売上債権回転日数、たな卸資産回転日数については、各四半期毎の期中平均値にて算出しております。

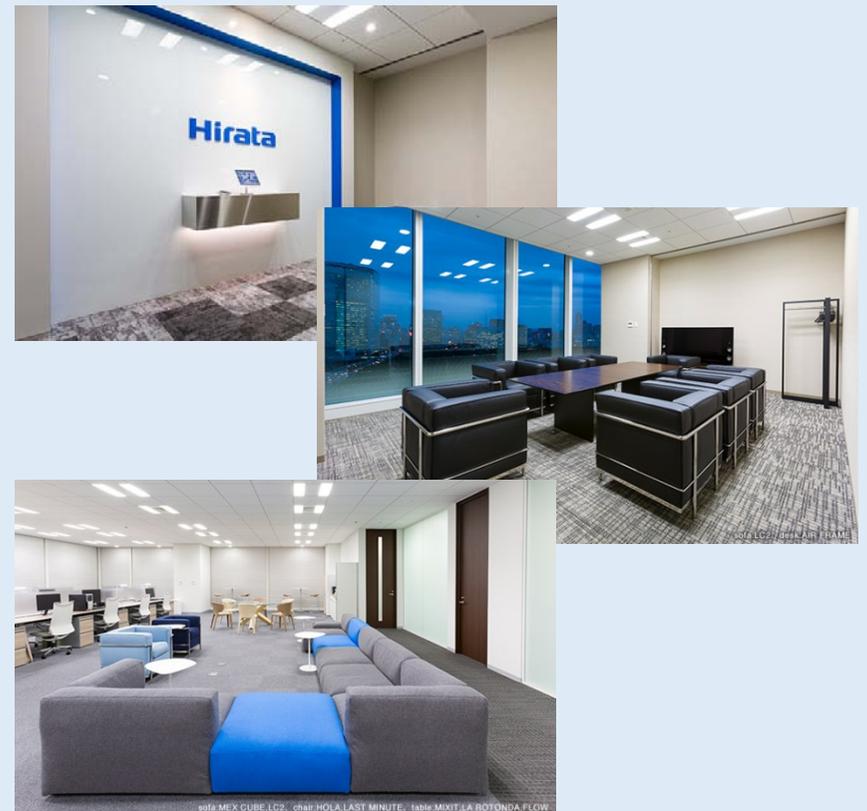
生産エリア拡大、営業所の移転など

● 東京営業所を港区に移転

従業員の労働環境および建物の安全性・耐震性、交通アクセスの向上を考慮し、2016年10月、東京営業所を品川区戸越から港区海岸に移転いたしました。駅、空港などの主要拠点からのアクセスも良く、営業所としての利便性、機動力に優れています。なお、1981年から本社であった品川区戸越の自社ビルは売却いたしました。



港区海岸、当社オフィスがある汐留ビルディング



ご注意

本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、経済動向、他社との競争状況、為替レートなど潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化などのさまざまな要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となることをご承知おきください。